

十七日醴泉を發して西方に向ふ時に午前八時四十分なり。行くこと十數町、涇河<sup>ホ</sup>を渡る。常には水を湛へざるも、其の幅約百五十米突あり、傳流村<sup>チヨウニル</sup>（人家約二十戸）西寧寨<sup>シニサイ</sup>（人家約十五戸）巨家村<sup>チユイチャ</sup>（人家約二十戸）を經て馮庄<sup>フォン</sup>（人家約二十戸）に到り、是より道路西南方に折れ、次で數町楊上村<sup>ヤンシヤン</sup>にて又西方に更に十數町、大楊村<sup>ヤンシヤン</sup>（人家約二十戸）に及んで西北方に向ひ、揚武村<sup>ヤンウ</sup>、四成村<sup>スーチヨン</sup>、西堡<sup>シプ</sup>を過ぎ、行程約五里、乾州<sup>ハンチョウ</sup>に泊す。

乾州路は平坦々たるも、路幅は僅々二米突内外より三米突に出です。幸に路側亦平坦なるが故に通過に便なり。土質は黒土にして砂少く、地形は醴泉の西門外より、涇河の通過點に到る北方は、同河に向つて急傾斜を成し、南方は傳流村の以西と同じく平坦開濶なるも馮庄に至れば、緩上傾斜と爲り直に乾州に入る。此間村落概ね圍壁を有し、樹木少く、鶴、雁殊に多し。蓋し醴泉、乾州間に於ける各村落は、相距ること約一千二三百米突、井然基<sup>ハンチョウ</sup>杵に似たり。是れ井田の遺風なりと云ふ。

乾州城は周圍約一里、磚製の城壁約一千五百の民家を包みて、官衙には直隸州衙門、學堂には中學堂、小學堂各一を有し、宗教は耶蘇教徒約五百人、人情質朴、一般に鴉片を好み、飲料は井水を用ゆ。

井田の遺風

乾州